

## ◆ 平成 29 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：ハチドリくらぶ

20A-36

代表者：代表 嶋田照子

URL : <http://ccs0527.wix.com/hachidori>

### 1. 活動が必要とされた状況

平成 24 年の熊谷市の市民一人（一日）あたりのごみ量が、1,159g で埼玉県一多いと新聞報道されたのを受けて、当団体では、ダンボールコンポストを使っての生ごみ減量に取り組んで来た。安くて手軽、土地が無くても実施できるダンボールコンポストの長所を生かして、平成 29 年度は、昨年度に続き、市内の小学生に自由研究のテーマに活用することとした。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

今年度前半の活動では、市内の西部地域の小学生を対象に夏休み科学教室「生ごみがヘンシーン」を開催し、自由研究で自宅の生ごみでダンボールコンポストを作るというテーマに取り組んでもらった。小学生のうちから生ごみ減量を意識づけできれば、家庭～学校～地域へと拡大して、我々の目標とする利用者 1,000 人に近づけるとの考えからであった。

#### (1) 夏休み科学教室

平成 29 年 7 月 29 日（土）：別府公民館 6 名 8 月 5 日（土）：商工会議所 9 名 と 2 回開催した。昨年と比較して少なかったのは、PR 不足と反省。

科学教室に参加した子供達の自由研究の報告会を平成 29 年 8 月 26 日（土）に熊谷市スポーツ文化村「くまびあ」において、開催した。こども 5 人、大人 3 名が参加して、研究成果を発表した後、みんなで昼食のカレーを食べた。学校への普及については、今後熊谷市の協力を仰ぎながら普及を図っていく。

#### (2) 循環農園の仕組み

課題の一つとして、堆肥を利用する循環農園の仕組みづくりがあるが、熊谷市市民活動支援センターの協力をいただき、利用者の堆肥を受付して保管していただき、それを深谷市上増田の小林農園に投入できた。小さいものではあるが、循環農園への一歩が踏み出せた。

#### (3) テキストの作成

さらに深谷市内での 3 回の講習会や熊谷市内での自治会等での講習会を通じてその過程をテキストとしてまとめることができた



### 3. 活動の成果

今回の助成事業では、生ごみの減量利用者拡大の方法を再構築するために昨年度に続き、小学生を対象に夏休みの自由研究として、家族も含めた利用者拡大による 1,000 人利用者実現の目標に歩みを進めることができた。一方、基材の供給体制として、会員以外の発達障害のあるジョブセンター利用者との協力により、袋詰めが出来た。

### 4. 今後に残された課題

夏休みの自由研究が好評であったので、引き続き実施していく。また、ダンボール箱の種類を増やすとともにコンポスト基材の供給体制を完備するとともに循環農園の拡充が残された課題である。